

製品安全データシート

ベンジルアルコール

作成 : 2007年4月1日
改訂 : 2024年11月29日

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称 Benzyl Alcohol
会社名 Vynova Advanced Organics BV
住所 Heilig Hartlaan 21, BE-3980 Tessenderlo Belgium
担当部署
担当者(作成者)
電話番号 +32(0)13612300
FAX番号 +32(0)13668406
メールアドレス
緊急連絡先番号 +32(0)14584545

製造工場 Vynova Advanced Organics Maastricht BV
住所 Ankerkade 111
NL-6222 NL Maastricht
電話番号 +31(0)436049194
メールアドレス SDS.AO@vynova-group.com

販売代理店 サンケミカル株式会社
住所 東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング
電話番号 03-3661-6681
FAX 03-3661-7055
メールアドレス yano@sun-chemical.co.jp
HP <http://www.sun-chemical.co.jp/>

推奨用途及び使用上の注意

溶剤、工場化学品、中間材、着臭材の構成物、個人向けケア製品、
塗料とインクの構成物、粘度調整剤、流動性向上剤、感光材
ベンジル誘導体原料、医薬品添加剤(殺菌剤)、塗料・インキ・エポキシ樹脂溶剤、
合成繊維染色助剤、医薬・化粧品防腐剤、他

★ 項目2 危険有害性の要約
GHSの分類

分類	区分	
急性毒性 吸引	4	H332: 吸い込むと有害
急性毒性 経口	4	H302: 飲み込むと有害
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	2	H319: 眼に深刻な刺激を引き起こす

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分らない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

● GHSのラベル要素 Regulati EC No 1272/2008 (CLP)による分類

● 絵表示又はシンボル

● 注意喚起語 警告

● 危険有害性情報

H-Statement
H332: 吸い込むと有害。
H302: 飲み込むと有害。
H319: 眼に深刻な刺激を引き起こす。

P-Statement
P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P261: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
P312: 気分が悪いときは医師に連絡すること。
P304+P340: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337 + P313: 目の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。



● 注意書き

以下の項目をご参照下さい。安全対策(項目7と8)、救急措置(項目4)、取扱い及び保管(項目7)、破棄(項目13)

項目3 組成及び成分情報	
化学物質・混合物の区別	単一化合物
化学名又は一般名	ベンジルアルコール
	フェニルメタノール、(Phenylmethanol)、 α -ヒドロキシトルエン、(α -Hydroxytoluene)
慣用名・別名	
分子式	C7H8O(108.14)
化学物質を特定できる一般的な番号	
CAS番号	100-51-6
成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)	99%
官報公示整理番号(化審法、安衛法)	(3)-1011
GHS分類に寄与する成分	

物質名	CAS/EC	構成	分類CLP	備考
Benzyl Alcohol (01-2119492630-38)	CAS:100-51-6 EC:202-859-9	99.9%	急性毒性 4;H332 急性毒性 4;H302 眼に対する損傷 2;H319	成分

▲ 項目4 応急処置

意識を失った場合、十分な空気を呼吸器官に送り込むこと。
呼吸が止まった場合、人工呼吸を施す。もしくは、酸素を与える。
心肺が停止した際、蘇生措置を施す。
呼吸困難の際、中腰になり休む。
ショック状態、あお向けになり、少し足をあげる。
嘔吐時、窒息状態を防ぐこと。異物が肺器官に入らないようにすること。

患者の身体が冷えないように毛布等を掛けること。患者から目を離さないこと。
患者の精神が沈まないように励ますこと。身体を休ませて、身体的負担を避ける。
患者の状態によって、医師の診断を受ける。
アルコールを与えない。

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移動する。肺器官に問題がある時は医師の診断を受けること。
皮膚に付着した場合	製品を肌からふき取る。直ぐに十分な水で洗浄すること。 石けんは使用可能だが、化学中和剤は使用しないこと。刺激が続くようであれば、 医師の診断を受けること。
眼に入った場合	十分な水で15分間、眼を洗う。 中和剤を使用してはならない。眼科医の診断を受けること。
飲み込んだ場合	口をゆすぐ。無理に吐き出させないこと。 出来るだけ速やかに医師の診断を受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
詳細な徴候及び症状は、項目11－有害性情報に記載する

吸引後	呼吸器官の刺激。鼻の粘膜に刺激。喉の乾燥又は痛み。咳。吐き気。頭痛。めまい。
皮膚に付着した後	皮膚の炎症。繰り返す痛み。
眼に入った後	眼組織の赤み。涙。眼細胞の刺激。視覚障害。
飲み込んだ後	中枢神経の抑制。頭痛。めまい。吐き気。嘔吐。下痢。調整障害。 意識障害。

応急処置をする者の保護	データ無し
医師に対する特別な注意事項	データ無し
毒劇物の場合、解毒剤	非該当

項目5 火災時の措置
職場のあんぜんサイトから引用

消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水、水噴霧（水噴霧はオリジナルのSDSでは推奨消火剤ですが、日本では消防法の規制の為、ベンジルアルコールの火災時、水噴霧での消火方法は推奨出来ません。）
火災時の措置に関する特有の危険有害性	燃焼時、一酸化炭素と二酸化炭素が形成される。 温度上昇時に特定の酸に触れると、激しく爆発する。 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼する。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 爆発の可能性があるので、壁に隠れて消防を行うこと。 熱を持っている場合、荷物を移動させないこと。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の特別な保護具及び予防措置	保護手袋 安全グラス 保護具 熱や火災にさらされている場合、呼吸機器を身に着けること。

項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	裸火を近づけない事。腐食耐性の器具を使用する事。容器を密閉すること。 大量/密室で漏れた場合、避難方法を考慮すること。 汚染場所から離れる事。関係のない人を避難させること。換気をする事。 項目8を参照ください。 手袋（EN374）、顔の保護具（EN166）、保護具（EN14605、EN13034）を着用すること。 適切な保護具は項目8を参照下さい。
環境に対する注意事項	漏出物を適切な容器に入れる。漏出液を塞いで、漏れを止める。 土壌と水を汚さないようにする。 下水に流れないようにする。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	非可燃性の容器に、液体を集めて入れる。 土、砂、ひる石、けいそう土等。吸い取った後に密閉容器に入れる。 丁寧に残りを集める。傷ついた容器は空にしておくこと。 汚染された部分は水でクリーンにしておくこと。
二次災害の防止策	

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意
取扱い

技術的対策 （局所排気、全体換気）	フロア全体の換気
安全取扱注意事項	アース線の接地設備があること。 裸火、熱に近づけないこと。 引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。 粒子状の際、耐火、耐爆発の設備を使用し、 発火源を近づけないこと。20℃でガスと蒸気が空気よりも重くなる。 容器を密閉すること。
接触回避	「10. 安定性及び反応性」を参照。
衛生対策	厳しく監視すること。容器は密閉すること。汚染された衣類は直ぐに脱ぐこと。 廃棄物を下水に流さないこと。

保管

安全な保管条件	-12℃～50℃で暗く、乾燥した場所で保管すること。 フロア全体の換気が行えること。法基準を満たすこと。 直射日光から遠ざけて保管すること。窒素充填で保管すること。
近づけてはいけないもの	可燃物、(強酸化剤)、金属、水/湿気
安全な保管保管包装材料	アルミニウム、鉄、ポリプロピレン、ガラス
不適切な容器	アルミニウム、鉄、銅、スズ、亜鉛、青銅 ステンレススチール

▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

下記の表はValtrisのオリジナルSDSの記載です。 ベンジルアルコール曝露

サンプリング方法

品名	試験	数
ベンジルアルコール	OSHA	2009
ブチルアクリレート	OSHA	2011

長期=慢性、 短期=急性

従業員

Effect level (DNEL/ DMEL)	type		值	備考
DNEL	長期全身作用	吸引	22 mg/m3	
	短期全身作用	吸引	110 mg/m3	
	長期全身作用	皮膚	8 mg/kg bw/day	
	急性全身作用	皮膚	40 mg/kg bw/day	

一般人

Effect level (DNEL/ DMEL)	type		值	備考
DNEL	長期全身作用	吸引	5.4 mg/m3	
	短期全身作用	吸引	27 mg/m3	
	長期全身作用	皮膚	4 mg/kg bw/day	
	短期全身作用	皮膚	20mg /kg bw/day	
	長期全身作用	経口	4 mg/kg bw/day	
	短期全身作用	経口	20 mg/kg bw/day	

生体系 PNEC(=無影響濃度予測値)

Compartment	值	備考
淡水	1mg/l	
海水	0.1mg/l	
塩水(断続的放出)	2.3mg/l	
下水処理場	39mg/l	
淡水沈殿	5.27 mg/kg sediment dw	
海水沈殿	0.527mg/kg dediment dw	
土壤	0.456mg/kg soil dw	

日本産業衛生学会(2007 年版)	未設定
ACGIH(2007 年)	未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。または換気を行うこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

アース線の設置を行うこと。裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけないこと。
引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。
粒子状の場合、着火源を近づけない。耐火、耐爆発の設備を使用すること。
呼吸器の保護具を着用し、局所、全体換気の管理で作業を行うこと。
厳格な衛生管理の下で作業し、容器は密閉し、作業中の飲食と喫煙は避けること。

保護具

呼吸用保護具 ガス蒸気の濃度が高い際、ガスマスクを着用する事。

手の保護具

材料	耐久時間	分厚さ	保護指数	備考
バイトン	8時間以上	0.7mm	クラス6	
ニトリルゴム	4-8時間	0.38-0.425mm	クラス2	
ブチルゴム	8時間以上	0.30-0.50mm	クラス6	
フッ素ゴム				耐久性低い

眼の保護具	面の保護具、安全ゴーグル(EN166)
皮膚及び身体の保護具	防護服(EN14605、EN13034)
特別な注意事項	

項目9 物理的及び化学的性質	
物理的状态	液体 オイル状
色	無色
臭い	アロマ臭
臭いの閾値	5 ppm 20mg/m3
融点・凝固点	-15℃ ;1013 hPa
沸点又は初留点及び沸騰範囲	205.℃ ;1013hPa
可燃性	
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	1.3-13.0 vol % 38.7-387g/m3
引火点	100℃(密閉);1013hPa
自然発火点	436℃;(密閉)1013 hPa
分解温度	データ無し
pH	データ無し
動粘性率	5.6 mPa.s ;20℃
溶解度	水 4g/100ml;25℃ エタノール 66g/100ml エーテル 完全溶解
n-オクタノール/水分配係数(Log値)	log Kow= 1.05 実験値 20℃
蒸気圧	0.07 hPa; 20℃
密度及び/又は相対密度	1.045(20℃) 絶対密度 1045 kg/m3 @20℃
相対ガス密度	3.7
粒子特性	
その他のデータ	
匂い閾値	5ppm、 20mg/m3
比伝導率	27μS/m
表面張力	40mN/m; 20℃
解離定数	15.4N/m;25℃;
臨海温度	403℃
臨界点	45585 hPa
相対密度飽和蒸気/空気混合	1
絶対密度	1045 kg/m3
可燃性	燃焼
Log Kow	1.05 実験値(20℃)
蒸発率	0.007 ブチルアセテート

● 項目10 安定性及び反応性

反応性	引火点以上の場合、可燃性と爆発性の危険がある。 物質は中性反応をする。
化学的安定性	吸湿性、光反応性、空気反応性がある。
危険有害反応可能性	強酸に強い発熱反応があり、爆発の危険性が上昇する。 アース設置を行うこと。
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など)	裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけない事。 引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。 粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。
混触危険物質	可燃物、酸化剤、強酸、金属、水、湿気、アルミニウム、鉄
危険有害な分解生成物 その他	燃えた場合、一酸化炭素と二酸化炭素を発生させる。 一酸化炭素を含む有毒ガス

★ 項目11 有害情報
急性毒性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体	雌雄	値の決定
経口	LD50		1620 mg/kg bw		ラット	オス	実験値
吸入 (aerosol)	LC50	OECD403	>4.18mg/L air	4H	ラット	オス メス	実験値

吸い込むと有害
飲み込むと有害
皮膚接触での急性毒性は分類できない

訳者の追記
(試験方法OECD403。値 >4.18mg/L。単位換算後、 >4.178mg/L)
下記は急性毒性の区分分け基準です。急性毒性の吸引が区分4の区分けになります。

曝露	区分 1 (ドクロ)	区分 2(ドクロ)	区分 3 (ドクロ)	区分4 (!)
蒸気 (mg/L)	≤0.5	≤2.0	≤10	≤20
ダスト / ミスト (mg/L)	≤0.05	≤0.5	≤1.0	≤5

皮膚腐食性/皮膚刺激性。 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

曝露経路	結果	方法	曝露時間	時点	被検体	値の決定
眼	刺激あり	OECD 405	24H	24; 48; 72 hour	ラビット	実験値
皮膚	僅かに刺激	OECD 404	4H	24; 48; 72 hour	ラビット	実験値

眼に重篤な刺激がある。
皮膚に刺激性があると分類されていない。
呼吸器に刺激があると分類されていない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

曝露経路	結果	方法	曝露時間	観察時点	被検体	値の決定
皮膚	感作性無し	OECD 406			モルモット	体重

皮膚に感作性があると分類されていない。
吸引で感作性があるとは分類されていない。

生殖細胞変異原性
突然変異原性 (in vitro)

結果	方法	曝露時間	試験基板	雌雄	影響	値の決定
代謝活性化無しで陰性、代謝活性有で陰性	OECD 471		バクテリア (S.typhimurium)			実験値
限定的陽性試験結果	OECD 476		マウス (lymphoma L5178Y cells)			実験値
陰性	OECD 474と同等		マウス	オス	骨髄	実験値

突然変異原性 (in vivo)

結果	方法	曝露時間	試験基板	雌雄	臓器	値の決定
陰性	OECD 474 哺乳類赤血球小核		マウス	オス	骨髄	実験値

発がん性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体雌雄	値の決定	臓器	効果
経口	NOEL	OECD 451	>400mg/kg bw/day	103週 (5日/週)	マウスオスメス	実験値		効果なし

NOEL=最大無影響量 (濃度)

生殖毒性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体雌雄	効果	臓器	値の決定
発達毒性 (経口胃チューブ)	NOAEL	発達毒性研究	175mg/kg bw/day	10日間 (1回/日)	マウス	無し		読み取り法
母体毒性 (経口胃チューブ)	NOAEL	発達毒性研究	175mg/kg bw/day	10日間 (1回/日)	マウス	無し		読み取り法
妊娠影響 (経口ダイエット)	NOAEL		≥ 750mg/kg bw/day		ラット オスメス	効果なし		読み取り法

NOAEL＝無毒性量
生殖毒性と発達毒性に分類されない。

特定標的臓器毒性、単回曝露
特定標的臓器毒性、反復曝露

曝露経路	基準	方法	値	臓器	効果	曝露時間	被検体 雌雄	値の決定
経口(胃チューブ)	NOEL	OECD451と同等	400mg/kg bw			103週間(5日/週)	ラット オスメス	実験値
経皮								データ放棄
吸入 (aerosol)	NOAEC	OECD 412	1072mg/m3			4週間(6時間/日、5日/週)	ラット メス	実験値

NOEL＝無毒性濃度
NOAEC＝無有害作用量

誤嚥有害性
その他

短長期暴露の慢性影響

胃の調子が悪くなる。体重の減少。頭痛。皮膚の腫れ炎症。

項目12 環境毒性情報
生態毒性

	基準	方法	値	期間	被検体	試験設計	淡水/塩水	値の決定
急性毒性魚	LC50		460mg/L	96時間	ファットヘッド ミノー	静的システム	淡水	実験値
急性毒性無脊椎動物	EC50	OECD 202	230mg/L	48時間	大ミジンコ		淡水	実験値
毒性藻、水生動物	NOEC	OECD 201	310mg/L	72時間	Pseudokirchneriella	静的システム	淡水	実験値
	EC50	OECD 201	770mg/L	72時間	Pseudokirchneriella	静的システム	淡水	実験値
魚に対する慢性毒性	NOEC	ECOSAR v1.0	48.897 mg/L	30日間	魚		淡水	QSAR: 名目濃度
長期毒性無脊椎動物	NOEC	OECD 211	51mg/L	21日	大ミジンコ	準静的システム	淡水	実験値
水生微生物に対する毒性	IC50	ISO 8192	soil dw	49時間	活性泥	静的システム	淡水	実験値
	IC50	ISO 8192	390mg/kg soil dw	24時間	ニトロソモナス	静的システム	淡水	実験値

Regulation (EC) No 1272/2008の基準で環境に危険分類はされない

残留性・分解性

生体分解 水

方法	値	期間	値の決定
OECD 301C と同 等	92-96%	14日間	実験値

水中で分解する。
土壌で用意に分解する
水中で分解し易い。

生態蓄積性

BCF 魚

基準	方法	値	期間	被検体	値の決定
BCF					計算値

BCF 他の
水性微生物

基準	方法	値	期間	被検体	値の決定
BCF					計算値

Log Kow

方法	備考	値	温度	値の決定
		1.05	20℃	

Log Kow <4 生体蓄積は低い

土壌中の移動性

基準	方法	値	値の決定
	SRC PCKOCWIN v1.66	15.7	QSAR

揮発性 ヘンリーロー

値	method	温度	備考	値の決定
0.0879 Pa.m3/mol		25℃		計算値

他の影響

オゾン層の破壊

オゾン層への有害性 オゾン層の破壊危険物に指定されてない。

他の有害影響

▲ 項目13 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい破棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って
危険有害性のレベルを低い状態にする。
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物業者に業務委託する事。

廃棄物コード(Directive 2008/98/EC, decision 2001/118/EC)
07 01 04(other organic solvents, washing liquids and mother liquors)
使用により、他のEURALコードが適用されることがあります。

蒸留してリサイクルする事。
法規制に従い、廃棄物を取り除く。有害廃棄物質は他の廃棄物質と混ぜないこと。
混ぜる事によって、有害物質が発生するか、今後の廃棄物運営で問題になる場合、
異なる種類の有害廃棄物質は混ぜるべきではない。
廃棄物は責任を持って処理すること。

廃棄物質容器コード (Directive 2008/98/EC)
15 01 10(packaging containing residue of contaminated by dangerous substances)

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

項目14 輸送上の注意			
国際規制 国連番号 品名(国連輸送名)		非該当 非該当	
国連分類 (輸送における危険有害性クラス)		非該当	
容器等級 海洋汚染物質 (該当・非該当)		非該当 非該当	
MARPOL73/78附属書Ⅱ及び IBCコードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当)		非該当	
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策			
国内規制がある場合の規制情報			
その他		移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。	
応急措置指針番号		非該当	

項目15 適用法令			
該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報			
化管法		非該当	
安衛法		通知・表示対象物質	ベンジルアルコール(2021年1月以降)
毒劇法		非該当	
火薬類取締法		非該当	
高圧ガス保安法		該当なし	
消防法		消防法	第2条危険物第4類第3石油類非水溶性液体(2,000L)
化審法		既存化学物質	ベンジルアルコール 化審法官報整理番号 3-1011
船舶安全法		非該当	
航空法		非該当	
バーゼル法		第2条特定有害廃棄物等(0.1%重量%以上含む物)	
外為法		輸出令別表第2の35の2項(0.1%重量%以上含む廃棄物)	
		キャッチオール規制	
港則法			
その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報			

項目16 その他の情報			
安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報			
引用文献	ベンジルアルコール Vynova A.O 2022年7月12日 (Vynovaとなったのは、2024年11月1日ですが、SDSはValtris時代の2022年7月12日発行分の流用です。)		
	職場のあんぜんサイト ベンジルアルコール MSDS 16716の化学品 化学工業日報 2016年 NITE 独立行政法人 製品評価技術基盤機構		
その他			
注意: ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。 ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実施を対象としたものです。 ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。 ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。			

赤字	必須情報	★	リスクアセスメント必須事項
青字	可能なら記載する情報	●	ラベルに記載する情報
黒字	無くても良い情報	▲	安衛法ラベルの注意書きの項目
色分け	2019年改正JIS Z7252/Z7253		(但し、ラベルに全て載せる必要はない)